

平成30年度 第1回奈良市の地域教育を考える懇話会 意見の概要

開催日時	平成 30年 11月6日(火) 13時30分から15時30分まで
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第22会議室
意見等を求める内容等	1 平成29年度 奈良市地域教育推進事業について 2 平成30年度 奈良市地域教育推進事業について 3 今後の奈良市地域教育推進事業について
参加者	出席者 8人 ・ 事務局 15人
開催形態	公開 (傍聴人 0人)
担当課	学校教育部 地域教育課

意見の内容の取り纏め

上記、1～3について報告、概要説明のあと、出席者に助言、意見を求めた。

■意見の概要

1 平成29年度 奈良市地域教育推進事業について

▶アンケート調査結果

- ・アンケートを長く続けているが、教員からの理解が得られていないと毎年報告されている。コーディネーターはどんな時に、学校の先生から理解を得られていられないと感じられるのか。学校にコーディネーターが入っていくようになって、接触は増えてきているのではないかと思う。
- ・教職員と地域の人の中に遠慮がある。また、一般職員への理解がまだ浸透しきれていない。積極的に先生方と交流することが重要である。
- ・管理職で課からの情報が止まっている。回覧等で情報共有を徹底することで、一般教員への理解浸透を図れるのではないか。
- ・管理職は地域と学校のパイプ役であり、互いに協力し合えるような環境・関係をいかに構築するかが重要。声をかけると地域からは喜んで協力してくれる。学校を運営していくにあたって地域の協力は絶対に必要である。
- ・一般の教員には、重要な事業であるという理解はあるが、温度差があるように思う。アンケート結果からは、課外活動の充実や教職員の負担軽減につながると思っている教員が少ない。地域によって可能かどうかの差があり、暴論かもしれないが、先生も多忙化しているので、学習支援やクラブ活動の支援に地域の力を借りる具体的な方策を考えることを突破口として捉えて、この膠着状態を打開できないか。
- ・学習支援やクラブ活動支援については、地域としてはどこまで入っていいのかわからない部分がある。学校側から声をかけていただければ動きやすい。
- ・クラブ活動支援はどこまで誰が責任を持つか、という難しい問題もある。
- ・アンケート結果の良い部分、苦手とする部分を伸ばすという考え方もあるが、得意な部分をもっと充実させていくことで、学校の先生に地域と連携していることを実感してもらうという方

法もあると思う。

- ・そもそも負担を軽減するというのが趣旨ではない。いろいろな人が関わって子どもの成長をサポートすることが目的である。

2 平成30年度 奈良市地域教育推進事業について

▶第8回「交流の集い」

- ・準備期間が短かった。また、交流の集いの趣旨が少しぼけていた。企画当初は地域の方が交流するという趣旨が、だんだん一般の方に知ってもらおうという方向へ傾き、そして原点回帰で、地域や教職員の交流の場という趣旨に戻ってきた。趣旨・方向をしっかりと定めて、周知することが重要である。
- ・子ども向けイベントはかなり好評だった。
- ・参加者比率でいうと教職員が一番多いが、教職員の参加をどのくらい見込んでいたのか、また管理職と一般教職員の割合はどうだったのか。
- ・8月は研修等で先生方は忙しい。交流の集いと夏休みの一般職員の研修と兼ねることは可能か。
- ・PTAとしても、こうした活動をしていただいてありがたい。催物等についてPRに協力させていただいて、一人でも多くの参加者が増えるよう努めていきたい。

▶奈良市コーディネーター研修

- ・奈良市では若い先生が増えている。教員の初任研修として、3年未満の先生方の地域教育への理解を深める研修を組み込むことで、相互理解がすすむのではないか。関係課で調整できないか。
- ・今年度から生涯学習財団にも案内いただき、参加している。会場で地域の方々と顔を合わせて同じ研修を受けることで、地域で一緒になって子どもを育てていく場に、公民館もその輪に入っているということが地域の方に伝えられてありがたい。学校と地域が、奈良市のキャリア教育で育てる4つの力（関わる力・活用する力・挑戦する力・見通す力）について共通の言葉を持ち活動するという方向性であるが、公民館の事業も共通の言葉で見直して展開できればと考える。

3 今後の奈良市地域教育推進事業について

- ・奈良市地域教育推進事業において、キャリア教育の視点で見直す・捉えなおすことは非常に有意義である。
- ・奈良市のキャリア教育で育てる4つの力のように、先生と地域の方々が共通の言葉で認識することは大変重要である。来年度の計画書作成の際に、この4つの力を意識したものとなっているとよいのではないか。
- ・放課後学び舎プロジェクト事業の目的は非常に良いが、この事業を負担に感じ、予算削減されてもかまわない、という学校が出てきたら本末転倒である。
- ・地域資源の偏在をどうしていくのかは一つの課題である。
- ・放課後学び舎プロジェクト事業について、地域の代表に上手く伝わっていない地域もある。放課後学び舎プロジェクト事業の趣旨と方向性について、試案・試算の提出期限までにどう浸透させるかが課題である。
- ・予算の運用方法や取組への相談等、事務局からの支援も重要になってくる。

- 地域教育協議会と学校運営協議会が有機的な関係を築くのは難しいかもしれないが、非常に重要である。放課後学び舎プロジェクト事業を結節点として、地域教育協議会と学校運営協議会の有機的な連携が今後できるようになっていくよう考えていく必要がある。
- 最近学生も多忙化しており、関わる人材が減少している。学生に協力してもらえると嬉しい。